石川県立美術館だより

平成17年4月1日発行　第258号

特集　花鳥画の世界

4月1日（金）～17日（日）会期中無休

色絵花鳥図台鉢　古九谷　17世紀

4月2日（土）～17日（日）の現代美術展会期中は、コレクション展示室・企画展示室ともに午後6時まで開館します。
また、金曜日・土曜日は午後8時まで開館します。（ただし入館は、それぞれ30分前まで）

目　次

花鳥画の世界 ……2
今月のコレクション展示室　主な展示作品…3
映像ギャラリー ……3
展覧会回顧（平成16年度開催の展覧会2、きものの美）…4
平成16年度新収蔵品一覧……5
企画展TOPIC（石川県立美術館の精華）　…6
第2回美術館バスツアー参加者募集　……6
ミュージアムレポート、企画展示室、4月の行事案内他 …7
企画展TOPIC（石川県立美術館の精華）　…8
友の会からのお知らせ、次回の展覧会 ……8

URL　http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

今月のコレクション展示室
（前田育徳会展示室）

特　集

花鳥画の世界

4月1日（金）～17日（日）

日本美術史上、もっともよく知られた画家として、「雪舟（一四二〇～一五〇六?）」の名を挙げる人は多いでしょう。国宝に指定されているものだけでも五点、重要文化財になると十四点を数えます。三年前に東京と京都で行われた「没後五百年　特別展　雪舟」では、その作品が一堂に紹介されたことで注目されましたが、入場するために長い列ができたことも、同じくらい話題になりました。

雪舟を画家として崇めたのは昔の人も同様で、例えば長谷川等伯は自ら「雪舟より五代」を名乗り、その系譜上に自らを置きました。その後も雪舟は崇められ続け、他の多くの画家のような時代とともに浮き沈みある評価に遭うことなく、現在もなおその頂点に君臨し続ける誠に希有な画家といえましょう。

雪舟がここまで評価されるのは、中国に渡り、本格的な中国の絵画を学んだというその経歴に対する羨望と、学んだそれらを自らの表現に変え、帰国後は多くの弟子を育てたという、その理想的な姿にあると思われます。雪舟筆と伝えられる作品が多いこと、また弟子による模写作品が雪舟の作風を知る上で重要視される点からも、その後世に与えた影響の大きさを知ることができます。

雪舟筆と伝えられる花鳥図は十点以上にも及びますが、前田家に伝わる本図（重要文化財）は、中でもその真筆性が古くから取り沙汰されていた三本のうちの一つです。雪舟の花鳥図の特徴は、まるで生き物のような存在感を放つ樹木の毒々しい描写と、その間を密に群れる鳥の圧迫感にありますが、本図にもその特徴がよく現れています。特に、竹が画面を分断するように描かれた左隻には、遠近を無視したことによる緊迫感が生まれています。

本特集では、この「四季花鳥図屏風」を紹介するほか、三月より引き続いて、王若水筆「花鳥図」（三幅）、六代梅田九栄筆「鷹狩図絵巻」、「鳥画帖」を展示します。なお、「鷹狩図絵巻」については春の巻を、「鳥画帖」は前期展示できなかった後半部分を紹介します。

南北に細長く、温帯という比較的穏やかな気候帯に属するわが国には、明確な四季の変化があります。そして、その季節に応じて数多くの「花」が咲き、私たちの目を楽しませてくれるばかりでなく、時には心を癒してくれることもあります。

絵画では、平安時代、年中行事や風俗を描いた四季絵や月次絵（つきなみえ）の中に用いられることにはじまり、室町時代以降は単独の画題として描かれるようになりました。

陶磁器の世界では、花木は最も重要な図柄の一つとされています。陶磁器の表面に上絵具を用いて絵や文様を描き、図様を焼き付ける色絵の技法が開発されて以降、その華やかさや美しさを表わすことができるようになったためです。これにより、あたかも絵画を見るような色調が表現されるようになりました。

今回の展示では、心和ませる花鳥を描いた絵画と陶磁器から十七点を出品しています。ここでは入れ替えになった作品も含め、そのうちの二点を紹介します。

色絵花鳥図台鉢　古九谷

中央に紫で彩った「鳥」が印象的です。幹を紫、葉を緑と黄、花を赤で彩色しています。古九谷の豪放な趣の中に「花」と「鳥」が見事にマッチしており、狩野派風の筆致もあいまって、一幅の花鳥画を見るかのようです。黄・緑・紫・紺青で濃く彩られた周囲の青海波、七宝、網代文も全体に深い重みをつけています。

花車図　大乗寺蔵

上部に御簾を配し、金地の下部には大きな花車と花籠を描いています。右隻には、垂れ桜や躑躅（つつじ）・薔薇（ばら）・椿・菖蒲・牡丹・杜若（かきつばた）・鉄線・百合など春から夏の花が、また左隻には、秋海棠・桔梗・萩・芙蓉・木槿（むくげ）・菊・紅葉・山茶花・水仙など秋から冬の花卉を濃彩で描いています。文字通り百花繚乱の草花が金地に映えて、豪華・華麗な趣を呈しています。

花車図（右隻）

今月のコレクション展示室
（第2展示室）

特　集

花鳥画の世界

4月1日（金）～17日（日）

今月のコレクション展示室

主な展示作品

4月1日(金)～17日(日)

◉＝国宝　◎＝重要文化財
□＝石川県指定文化財

◉色絵雉香炉（右）
◎色絵雌雉香炉（左）
野々村仁清

前田育徳会展示室

特集　花鳥画の世界

花鳥図　王若水
◎四季花鳥図屏風　伝雪舟
鷹狩図（春）　六代梅田九栄
鳥画帖

第1展示室

◉色絵雉香炉　野々村仁清
◎色絵雌雉香炉　野々村仁清

第2展示室

色絵牡丹文平鉢
□色絵鶉草花図平鉢　古九谷
□色絵百花散双鳥図平鉢　古九谷

特集　花鳥画の世界

色絵花鳥図台鉢　古九谷
染付花鳥図芙蓉手平鉢　若杉窯
色絵花鳥図銅鑼鉢　永楽和全
小鳥に萱草図　元賀
笹に兎図・蓮に翡翠図　久隅守景
花車図

※4月より従来の常設展示室・常設展示という名称をコレクション展示室・コレクション展示と改めました。

※第3～6展示室は、4月2日(土)から4月17日(日)まで第61回現代美術展会場となっております。通常の展示は4月21日(木)からですが、次号でご案内いたします。

◆観覧料

個人	一般	350円
	大学生	280円
	高校生以下は	無料
団体（20名以上）	一般	280円
	大学生	220円
	高校生以下は	無料

□色絵百花散双鳥図平鉢

小鳥に萱草図　元賀

笹に兎図・蓮に翡翠図
久隅守景

映像ギャラリー

◇今月の映画

4月17日(日)　月例映画会／ホール
「日本の肖像画　歴史上の人物たち
その姿と影」（23分）
「速水御舟　その壮烈果敢な芸術生涯」（23分）
4月24日(日)　月例映画会／ホール
「輪島塗」（30分）
「加賀友禅」（20分）
※いずれも入場無料

今月の映像ギャラリーは、上記の内容で行います。

ここでは、その中の「輪島塗」を取り上げてみたいと思います。

漆の原木が豊かであった能登の山々からは、豊富な漆液がとれ、これまで漆製品が多く作られてきました。とくに輪島において、すぐれた漆塗りの作品が生み出され、「輪島塗」として全国に知られてきました。この映画では、輪島塗の椀の制作工程を順にたどりながら、一つの作品が、熟練した職工たちの巧みな技術によって、いかに多くの手間をかけて作られているかを紹介しています。

その作業はまず、原木を椀の原型に割っていく型はつりから始まります。はつり師は、木を見た瞬間に椀がいくつとれるかを判断し割っていくのですが、その素早さ、正確さには驚かされます。その後、十分に乾燥させた椀は、木地師の手によって椀の形に仕上げられていきます。輪島の椀の木地は、原木を横目に使い薄く挽くというところに特徴があり、ほとんど向こう側が透けて見える程に挽く高度な技術が要求されます。それが終わると漆を塗る工程に入りますが、下地部屋と上塗部屋にわかれ、ここで36から60もの工程を経てできあがるのです。輪島塗が丈夫で長持ちするといういわれの一つは、この塗りにおいて、漆に地の粉といわれる黄土（珪藻が主成分で酸や熱に強い）を混ぜ合わせて塗られているからといわれています。適度な湿気を与え漆が定着した椀は、最後に加飾の職人の手にわたり、金や銀を使った装飾が施され、ようやく完成に至るのです。

展覧会回顧

平成16年度開催の展覧会2

後期に1階企画展示室で開催された当館主催の特別展は2回です。

「没後30年 香月泰男展－〈私の〉シベリア、そして〈私の〉地球－」は、全国6会場での開催でした。企画の段階から、地元山口会場のほかのどこか日本海側で開催できないかという打診がありました。当館でも以前から、香月泰男展はいつか開催したい展覧会の一つということで、機会を探っていましたので、この機会に是非ということで開催したものでした。没後30年記念展ということで、香月家、地元の三隅町立香月美術館、山口県立美術館の全面的ご協力により、シベリア・シリーズ全57点を中心に、初期から晩年までの油彩、水彩、素描、陶画等にオモチャ、テラコッタなどの小彫刻、さらに戦地から家族に宛てた軍事郵便はがきなど、170余点の作品と資料により、画業の全貌と多様な造形世界、人物像を紹介するものでした。画家の作品世界の広さを再認識させられましたが、なんといってもシベリア・シリーズでした。過酷な体験をした人のみが描けた過酷な世界について、同じ体験をされた人達も含め、様々な感想（つぶやき）が展示室でも聞かれました。

没後30年　香月泰男展会場

「きものの美－新春を寿ぐ－」は、石川県を代表する伝統工芸の一つである染織工芸を、日本の伝統的衣装である着物で紹介するものでした。

当初は、着物装の数ある意匠の中から、吉祥文など新春にふさわしい主題に絞っての作品選定も考えられましたが、より幅広く、多様な着物の世界を紹介しようということで、『継承する意匠』『構築する意匠』『反復する意匠』『モダニズムの意匠』の四部構成で、60点の作品を展示し、いろいろな作家、技法、素材の着物を紹介することで、着物のかたちや色、意匠などさまざまな点からその魅力を探り、日本の伝統衣装である着物の美をわかりやすく紹介する内容としました。

会期中、着物を着てご来館の方は、観覧料を団体料金に割引したこともあり、着物でのご来館の方も多数お見えになり、展示作品とともに、展示室全体が、新春のはなやいだ雰囲気に包まれ、日本の伝統衣装・着物の美を再認識していただくよい機会となったことと思いました。

2階常設展示室で開催した特別陳列や特集は29回を数えました。

「古九谷へのまなざし－昭和・平成の名工たち－」は、石川県（ゆかりを含む）の陶芸家33人の作品を展示し、古九谷への熱い思いが、制作の源となっている様相を改めて紹介するものでした。

「彫刻家 清水良治」は、久方ぶりの彫刻家の特別陳列でした。社会現象、文学などからテーマをとり、必要なもの以外をそぎ落としてゆく人物像による、氏独特の造形世界を堪能していただきました。

本年度もキッズ・プログラムをいろいろ行いました。初めての試みとして、中学生に当館の収蔵品による展覧会を企画、運営してもらった**「マイ・ミュージアムをつくろう」**は、担当者は大変でしたが、今後の展望が開けた事業だったと思います。

前田育徳会展示室では、**「加賀藩の美術工芸」**、**「尊経閣文庫名品展」**、**「茶道美術名品展」**において、それぞれ前田育徳会から優品を借用展示し、加賀藩において収集育成された美術工芸の精華を鑑賞いただきました。

（南　俊英　学芸第一課長）

きものの美―新春を寿ぐ―

当館が所蔵する染織作品、特に着物は、近現代工芸を展示する、第5展示室に於いて、一か月に4～5点ずつしか展示することが出来ないため、これらをまとめてご覧いただくために、企画したことが始まりでした。

昭和の前期に活躍した作家の作品や、木村雨山をはじめとする、友禅の人間国宝の作品、そして現在石川県内で活躍する作家の方々による作品。コレクションの中のこうした作品を一堂に会して、伝統を継承しつつ、革新されていく染織技術と、着物のデザインに焦点を当て、展覧会を鑑賞した方々には、古い時代の作品にも、新しい作品にも興味を持っていただきたい、ということがささやかなねらいでした。

全60点の展示作品のうち、3分の2以上は当館のコレクションですが、個人の方や他の美術館からも作品をお借りして、石川県では観る機会が少ない、織や刺繍などの人間国宝の作品も展示することが出来ました。普段から着物に親しんでいる人だけでなく、興味はあるけれど何となく縁遠い、と思っている人にも、展覧会を楽しんでいただけたようで、自分が一番着たいのはどれかという会話が、展示室内のあちこちで交わされており、また作品の技法に関する質問をする方が、何人もいらしたのが印象的でした。

雪で足下が悪かったにもかかわらず、新年会やお茶会帰りと見受けられる着物姿の方が、毎日何人も来館されて、会場に花を添えて下さったことも、友禅の伝統があり、お茶が盛んな金沢ならではの展覧会風景であったと言えるでしょう。

最後になりましたが、本展を開催するにあたって、貴重な所蔵品をご出品頂いた方々、及び多大なご協力をいただいた関係者の方々に、この場をお借りして深く感謝致します。

（学芸主任　寺川和子）

平成16年度　新収蔵品一覧

平成16年度の新収蔵品は、寄贈105点、購入10点、計115点となりました。ご寄贈を賜りました各位に対し、改めて感謝の意を表します。また今後とも皆様のより一層のご協力をお願いいたします。

平成17年3月31日現在の収蔵品総数は2860点です。

陶磁

色絵菩薩図飾皿	北出不二雄作	北出藤雄氏寄附
灰釉打押文花生	北出不二雄作	北出藤雄氏寄附
麗日壺	北出不二雄作	北出藤雄氏寄附
青釉寂静台皿	北出不二雄作	北出藤雄氏寄附
色絵更紗竹文香合	北出不二雄作	北出藤雄氏寄附
暮れる蓮池	北出不二雄作	北出藤雄氏寄附
染付埴輪飾皿	北出不二雄作	北出藤雄氏寄附
耀彩小紋水指	三代徳田八十吉作	徳田八十吉氏寄附
練上布目入蓋物	木原行成作	
青釉線文花器	宮西篤士作	
黄地紅彩葵文平鉢	宮本雅夫作	
石蕗文飾鉢	山田義明作	

漆工

住吉蒔絵硯箱		角海藤三氏寄附

染織

松の図	談議所栄二作	談議所喜美江氏寄附
群生	談議所栄二作	談議所喜美江氏寄附
友禅訪問着「君影草」	窪田裕兆作	
友禅訪問着「春を待つ」	白坂幸蔵作	

金工・刀剣

県文　黒漆打刀拵		木嶋光仁氏寄附

截金

木彫截金彩色合子「香牛」	西出大三作	

日本画

石川義作品79点	石川　義筆	石川　義氏寄附
山肌の輪廻	石川　義筆	
経堂への道	石川　義筆	
雪中難旅之図	紺谷光俊筆	竹田丈夫氏寄附
添い寝	百々俊雅筆	百々俊雅氏寄附
日曜日	百々俊雅筆	百々俊雅氏寄附
Lex.Avenue	中町　力筆	中町　力氏寄附

彫塑

凪	川岸要吉作	川岸厚子氏寄附
リズ・ハースト	川岸要吉作	川岸厚子氏寄附
遠い道	川岸要吉作	川岸厚子氏寄附
首（男）	木村珪二作	川岸厚子氏寄附
首（女）	木村珪二作	川岸厚子氏寄附
蜘蛛の糸（芥川龍之介より）	清水良治作	清水良治氏寄附
黒い木	清水良治作	清水良治氏寄附
見果てぬ夢（ドンキホーテ）	清水良治作	清水良治氏寄附
飛	清水良治作	
石田一郎像	吉田三郎作	石田　章氏寄附

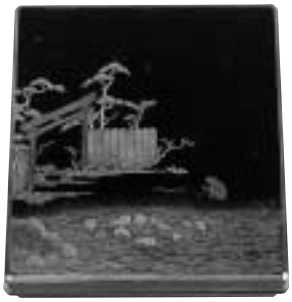
版画

浮世絵版画3016枚		久世　靖氏寄附

耀彩小紋水指　三代徳田八十吉

青釉寂静台皿　北出不二雄

県文　黒漆打刀拵

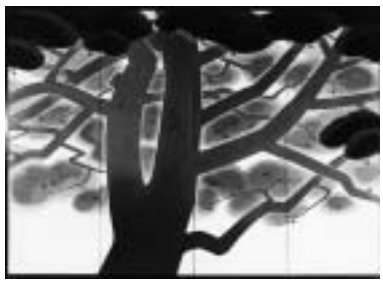

住吉蒔絵硯箱

雪中難旅之図　紺谷光俊

風流子宝合　喜多川歌麿

石田一郎像　吉田三郎

黒い木　清水良治


松の図　談議所栄二

凪　川岸要吉

日曜日　百々俊雅

Lex.Avenue　中町 力

経堂への道　石川 義

第2回美術館バスツアー
～国宝・松林図屏風を訪ねて～

期　　日　5月1日（日）
参 加 費　6,500円　※会員外は6,700円
募集定員　45名（対象は原則として成人）

見学予定地

◇能登中島祭り会館（七尾市）
勇壮な「枠旗祭り」を再現。1200インチの大画面で祭りの興奮が体感できます。

◇石川県能登島ガラス美術館（七尾市）
開催中展覧会「色彩のうつわ　トゥーツ・ジンスキー展」米国女流作家ジンスキーの初期の作品から新作まで25点を展示しています。

◇石川県七尾美術館（七尾市）
開催中展覧会「国宝・松林図屏風　長谷川等伯展」嶋崎丞館長の解説があります。

◇長齢寺（七尾市）
前田利家が菩提所として建立した寺。利家の父母の墓が築かれ、利家を中心に家族の画像を寺宝として残しています。

◇本延寺（七尾市）
長谷川等伯の生家奥村宗道の菩提寺。七尾市指定文化財の「木造日蓮坐像」「絹本著色釈迦涅槃図」を公開予定。

昨年度平等寺にて

申し込み方法

◇往復はがきに下記の事項をご記入し、ご応募下さい。参加証を発行します。応募多数の場合は抽選となります。

①往信はがき裏面に美術館バスツアー希望と明記し、住所・氏名・年齢・会員番号をお書き下さい。
②返信はがきの表面には、返信先（住所・氏名）をお書き下さい。
③返信はがきの裏面には、何も書かないで下さい。

◇応募先　〒920-0963　金沢市出羽町2-1
石川県立美術館 美術館バスツアー 係あて
◇応募締切　平成17年4月11日（月）必着

※応募希望者1名につき、往復はがき1通でご応募下さい。お一人で何通も出されたものや、連名のもの、記載事項が不備なものなどは無効となりますのでご注意下さい。
※当館からの返信は、再発行いたしません。

企画展TOPIC

石川県立美術館の精華－近年の収蔵品から－

色絵芦翡翠図平鉢　松山窯

昭和58年の開館以来、当館では石川県の伝統的な芸術的特性を生かした地方色豊かな美術館をめざして、展示やいろいろな事業などに取り組んできました。この20年余の間に作品の収蔵も大きくすすみ、現在では2,800点を超えて開館当初の2倍を上回る収蔵品数となっています。こうした作品の収蔵にあたっては、石川県にゆかりの深い美術品や、作家の作品を第一としてきました。それはこれらの作品が当館のめざす、地方色豊かな美術館にふさわしい作品と考えられたからです。

このような美術館の基本的な考え方の背景には、石川県の文化的風土が深く関わっています。石川県は、加賀藩主前田家の保護育成政策により、江戸時代から文化の華が咲きました。それ以降、美術工芸の盛んな地域として発展し、その伝統は今日まで継承されています。また作家活動が盛んなことでも知られ、伝統的に高い水準が保たれてきました。そこで、当館では収蔵に際して、石川に関係のある優れた美術品を系統的に集めることにしたのです。

これまでこうした作品の数々は、主に2階の常設展示室（現在のコレクション展示室）で個別に紹介してきました。しかし近年、多くの美術館で収蔵品を系統的に紹介する展覧会が開かれるようになってきており、当館でも春の企画展として「石川県立美術館の精華」を開催することにしました。こうした展覧会が各地で行われるのは、美術館がいかにあるべきかを問われ、その果たすべき役割を改めて確認しようとしている今日にあって、館の歩みをたどるにふさわしい展覧会が求められているからにほかなりません。そこで今回は、この10年間に収蔵された代表的な作品をご紹介することとし、あわせて当館の付属施設である石川県文化財保存修復工房の活動成果としての修復作品を展示することにしました。当館の活動の大きな柱である「作品収集」と「保存修復事業」という2つの部分をご紹介することで、地方色豊かな美術館をめざす石川県立美術館の姿を、あらためてご覧いただこうとするものです。

（谷口　出　普及課長）

花色裾紫糸威六枚胴具足

※「石川県立美術館の精華－近年の収蔵品から－」の会期は2005年4月23日（土）～5月15日（日）です。

ミュージアム　レポート

キッズ☆鑑賞講座

12月4日（土）「万国博覧会の世紀　－明治の工芸－」

小学生を対象に常設展示室を使用して、鑑賞講座を開講しておりますが、今回は「万国博覧会の世紀－明治の工芸－」です。

今回は、展示室へ鑑賞に行く前に、作品の模様を連想したり、作品の模様のトレースを行いました。話しの内容から、華やかで、小さなお花模様が作品いっぱいに描かれているのだろうという予想は立ったようなのですが、描いてみるとなかなかの難題で、作品からのトレースになると、「こんな小さな部分に白いお花いっぱい」「白だけじゃないよ、黄色。オレンジ…すごい」と、作品鑑賞に行く時間がなくなるのではないかとこちらが心配になるほどでした。

展示室では、華やかな作品がいっぱい並んでいます。まず、講義室で模様をトレースした作品に集まり、順に作品鑑賞。「さっき描いた部分はここだ」「この模様もお花をヒントに考えたんだ」作品を前に、踏み台に登り、上から横から、そしてかがんで下からと、講義室での話しを思い出しながら、納得いくまで鑑賞し、自分の感想を述べ合いました。

次回の鑑賞講座は5月7日（土）「石川県立美術館の精華を鑑賞しよう」です。この機会に私たちとたくさんの美術に親しみましょう。

ギャラリートーク

2月19日（土）「万国博覧会の世紀　－明治の工芸－」

3月25日から、2005年日本国際博覧会、いわゆる愛知万博が始まります。それを記念して昨年から今年3月まで、「世紀の祭典　万国博覧会の美術」展が開催されました。このように、近年、19世紀後半に盛んに開催された万国博覧会の時代、明治の工芸の再検証の風潮に相伴って、当館では恒例となっている特集展示です。今回は、特に海外への輸出振興を図らんが為、時代にあった図案研究の一例となった地元工芸家による「蓮池会考案図式」6冊の中、第1号、2号の一部を展示し、その時代の陶磁、金工、漆工作品と対比することで、より理解が深まったように思われます。そして、ギャラリーも楽しく鑑賞できたのではないでしょうか。

企画展示室

第61回現代美術展

4月2日（土）～17日（日）（第3～9展示室）

〈部門〉日本画　洋画　写真

◇入 場 料　一　般　1,000円（800円）
大高生　600円（400円）
中小生　500円（300円）
（　）は団体料金
※当館友の会会員は、会員証提示により団体料金になります。

◇開館時間　午前9時30分～午後6時
金曜日・土曜日は午後8時まで

◇連 絡 先　金沢市香林坊2-5-1
北國新聞社事業局内「第61回現代美術展」事務局
☎076-260-3581

《彫刻、工芸、書》は、金沢21世紀美術館で展示いたします。

各地の展覧会……4月

※開催日程、休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。

自然をめぐる千年の旅　5/8まで
愛知県美術館（名古屋市・052-971-5511）

宮本三郎とファッション　5/22まで
小松市立宮本三郎美術館（小松市・0761-20-3600）

中宮寺　国宝菩薩半跏像　4/17まで
東京国立博物館（台東区・03-5777-8600）

天才絵師　葛飾北斎　4/2～5/8
姫路市立美術館（姫路市・0792-22-2288）

ふるさとの美－富山を描く120景　5/15まで
富山県立近代美術館（富山市・076-421-7111）

4月の行事案内　《入場無料（ギャラリートークを除く）・いずれも午後1時30分から行います》

月　日	行　事	内　　容	会　場
4/17（日）	月 例 映 画 会	日本の肖像画　歴史上の人物たち　その姿と影（28分） 速水御舟　その壮烈果敢な芸術生涯（28分）	ホール
4/23（土）	ギャラリートーク	加賀・能登の名宝　（村上尚子　学芸員） ※展示室内で行われるため、コレクション展の入場料が必要です。	コレクション展示室
4/24（日）	月 例 映 画 会	輪島塗（30分） 加賀友禅（26分）	ホール

※4月の全館休館日は18日（月）～20日（水）です。

企画展TOPIC　「石川県立美術館の精華―近年の収蔵品から―」

県文　源氏物語図　伝岩佐又兵衛

友禅訪問着「あじさい」　木村雨山

連理　脇田 和

県文　蒔絵螺鈿白楽天図硯箱　尾形光琳

截金彩色合子「酉」　西出大三

河のある街　山本知克

※本文は6ページです。

友の会からのお知らせ

このたびは友の会へご入会くださいましてありがとうございます。会員の皆様のお手許にはこの『美術館だより』を毎月お送りいたしますが、送付事項に誤りまたは今後変更などがございましたら、お手数でもご一報くださいますようお願いいたします。会員証提示による入館料の割引は、**石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢21世紀美術館**でも受けることができます。（いずれも各館主催展覧会に限ります。）また今年度からは、**会員本人に限り、当館コレクション展へは年間通して無料で入場**できます。お出かけの際にはどうぞご利用ください。

920―0963
金沢市出羽町２―１

石 川　　県 美 様　　2005

会員番号
会員証裏面左上の番号と同じものです。

郵便番号バーコード

次回の展覧会

特　集　春の優品選（前田育徳会・第3～6展示室）
特　集　加賀・能登の名宝（前期）（第2展示室）
4月21日（木）～5月15日（日）

当館企画展
石川県立美術館の精華―近年の収蔵品から―
（第7～9展示室）
4月23日（土）～5月15日（日）

休館日：4月18日（月）～20日（水）

石川県立美術館だより　第258号
2005年4月1日発行
〒920-0963　金沢市出羽町2番1号
TEL 076(231)7580　FAX 076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/